

東書藝

令和2年4月

<http://www.toshogei.jp/>

団結強く 第六十七回 公募東書藝展 開幕

令和最初の第六十七回展は、開催環境の大きな困難の中で開幕、団結して喜びの日を迎えることができた。第一会期四月七日～十二日・名古屋市民ギャラリー栄、第二会期四月二十一日～二十六日・愛知県芸術文化センター8階。今年も二期に亘つての開催で幹部作品は両会期を通して、大賞・準大賞などの入賞作品は第一会期の展示となる。両会場とも多くの来場者を心待ちにして入魂の作品が並んだ。



会長 風岡五城

第六十七回東海書道藝術院展の開幕を迎えました。新型コロナウイルスの感染がなお終息していない状況を踏まえ授賞式、祝賀会は中止といたしました。また会場内は手洗い、マスクの着用をお願いしながらの展覧となります。ご鑑賞下さる皆様には大変ご不便をおかけしますが、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

本会は創立当初より、書の古典を根底にふまえ一人一人が「自由かつ大胆」な作品の発表を目指すことを会の理念としてき

ました。今年はどんな作品に出合えるのか、とくどご覧いただければ幸いです。書の作品は文字を素材としていますからその内容もちろん無視するわけにはいきませんが、ご覧になるときはそれを第一義とせず、むしろ作品から伝わってくる何かを直感的にとらえて見ることも大事なことです。中国の書論に「書をよく知る者は「字形を見ずして神彩を見る」という言葉もあります。見る人それぞれの見方があってもいいと思います。ところで恒例になりました中

日新聞全面広告のキャッチフレーズは、今回は「墨華」としました。墨竹、墨梅は墨で描かれた竹や梅のことを指します。それと同様に墨華といえbaumうは墨で描かれた花となりますが、ここでは書の作品を華にたとえて用いました。

大賞に清水玲飛氏、
準大賞には岩井玲翠氏
が決定

第六十七回展 審査会

第六十七回展審査会は三月十七日・十八日の両日、ウイルあいちで行われた。新型コロナウイルス感染症問題の影響で当初の予定会場が使用不可の状況に見舞われたが、幹部・審査部の尽力で日程・会場変更が成り、滞りなく各賞を決定することができました。投票では同点決勝の場面も多く、審査員の厳しい眼差しが候補作品に注がれていた。受賞者の皆様には心よりお祝い申し上げます。

第六十七回東書藝展

各部受賞者名

会員の部

【大賞】

鈴木 久江

堀場 太崖

根岸 朋華

堀木 蓮珠

三苦 花風

緒方美乃里

宮田 洋子

青木 美和

近藤 蒼依

清水 玲飛

【秀作】

多賀 光華

大橋 栄美

今村 香樹

三浦 韶華

林 直人

鈴木 翠香

山田 法子

村手友希乃

【準大賞】

今田 春恵

富永 邑璃

稲垣 竹葉

大島 正

武内 太志

鈴木 俊泉

酒井 俊泉

土井実千子

春日井 翔

岩井 玲翠

鳥井 春翠

【中日賞】

安田 加奈

近藤 七峰

永井 恵草

竹井 寶山

【推薦】

山内 絹美

緒方日南子

【知事賞】

山崎 華風

井上 麗翠

古田 良江

土井早知子

前田 笙

谷本 愛香

酒井 奏風

長田 桂花

森 雅竹

甲斐千紀子

恒川 玲舟

下山 竹葉

加田 麗芳

野口 昌子

鈴木 理子

菅原 玉翠

進 優衣奈

安藤 清舟・岩田 冬崖

【総領事賞】

伊藤 聰雨

大里 紅舟

荻野 陽華

【市教委賞】

杉原 照楓

近藤 北明

小川 青螺

今枝 大軒・伊藤 春魁

谷口 竹城

佐々木治子

佐賀 薫風

馬場 玉鳳

奥村 知翠

【市教委賞】

平松 杏梨

近藤 恵子

安井 繁美

勝原 早紀

谷口 竹城

【県教委賞】

背尾 玉燐

松原 千翠

森岡 紅苑

【市教委賞】

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

金谷 典子

岩崎 彩加

一柳 庭華

北河 光春

谷口 桂月

【特選】

早坂 幽蘭

森本 春香

鈴木 紅楓・河野 春園

鈴木 紫舟・木村 大澤

【中日賞】

犬飼 美華

北河 光春

谷口 桂月

【市教委賞】

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

石田 清蘭

岡田 豊苑

北河 光春

谷口 桂月

【市教委賞】

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

【東書藝賞】

竹之内観道

谷口 桂月

谷口 桂月

【市教委賞】

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

服部 草心

佐野 祥林

熊澤 華香

熊澤 華香

【市教委賞】

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

【特選】

鈴木 希代美

坦田 清琴

坦田 清琴

【市教委賞】

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

吉岡 松龍

鈴木 希代美

坦田 清琴

坦田 清琴

【市教委賞】

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

遠山 穂光

新海 真道

鈴木 清光

鈴木 清光

【市教委賞】

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

鈴木 智水

新海 真道

鈴木 清光

鈴木 清光

【市教委賞】

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

伊藤 緑香

浦野 博夫

浦野 博夫

浦野 博夫

【市教委賞】

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

平井 瑛玉

駒田香代子

駒田香代子

駒田香代子

【市教委賞】

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

石黒 井泉

井上 清麗

井手 上香峰

山田 春麗

山田 春麗

山田 春麗

井上 清麗

野田 弘美

林 鈴遊

宮崎みゆき

宮崎みゆき

宮崎みゆき

井手 上香峰

【東書藝賞】

宮崎みゆき

【中日賞】

小田恵美子

谷本 春聲

山田 溪翠

宮本 聖堂

伊藤 陽子

小田恵美子

藤盛 伸美

松田 恵花

岩本 恵子

野呂 妙香

三輪 啓子

【東書藝賞】

青木 美和

近藤 蒼依

堀木 蓮珠

三苦 花風

緒方美乃里

宮田 洋子

山田 法子

村手友希乃

水野 碧友

三浦 韶華

林 直人

鈴木 翠香

【秀作】

内藤みつ子

今村 香樹

【推薦】

【秀作】

酒井 俊泉

土井実千子

春日井 翔

稲垣 竹葉

大島 正

武内 太志

鈴木 俊泉

山内 絹美

緒方日南子

近藤 七峰

永井 恵草

竹井 寶山

【推薦】

長田 桂花

土井早知子

前田 笙

谷本 愛香

酒井 奏風

進 優衣奈

安藤 清舟・岩田 冬崖

恒川 玲舟

下山 竹葉

加田 麗芳

菅原 玉翠

西尾 邑軒・松浦 白碩

今枝 大軒・伊藤 春魁

荻野 陽華

杉原 照楓

近藤 北明

小川 青螺

谷口 竹城

谷口 竹城

奥村 知翠

平松 杏梨

近藤 恵子

安井 繁美

勝原 早紀

谷口 竹城

松原 千翠

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

森岡 紅苑

【特選】

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

北河 光春

早坂 幽蘭

森本 春香

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

谷口 桂月

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

熊澤 華香

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

熊澤 華香

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

坦田 清琴

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

鈴木 清光

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

鈴木 清光

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

浦野 博夫

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

駒田香代子

伊藤 紫香

伊藤 秀

山本 小桃

村上 朝朗

鈴木 紅楓・河野 春園

第五十五回 新春東書藝代表作家展

令和二年の新春を飾る東書藝代表作家展が、一月七日（十二日）、名古屋電気文化会館西ギャラリーで開催された。東書藝幹部・役員四十七名の出品。会を代表する実力者の作品群は見応え十分で、会場は一年のスタートにふさわしい華やいだ雰囲気 に溢れていた。

(3)

風岡五城：題意に相应しく神々しい輝きを放つ作。安藤清舟：力強く重厚感ある四字句。達観の作。久野北崖：独特の書風に動きが加わり魅力度増。岩田冬崖：卓越したセンスを熟練の表現で。西尾邑城：対句の篆書作。造形の妙が楽しい。尾関陶山：気力満ちる横額作品。下部に配した小字も味わい深い。水谷紅楓：流れの美しい行草書作。筆さばきが冴える。松浦白碩：沈潜して深みのある線条が魅力の草書作。お人柄を感じる。ほかにも快作多数。スペースの関係で紹介出来ないのが残念。



風岡五城
「鸞翔」



安藤清舟
「陶淵明句」



木村大澤
「奮臂雲興」



松浦白碩「孟浩然詩」



水谷紅楓「韋承慶詩」



岩田冬崖「鰐風龍龍」



西尾邑城「對句」
唐花・美酒



久野北崖「王安石詩」



伊藤春魁
「紀貫之の歌」



山本晴城「慶雲」



尾関陶山
「祖詠句」



谷口竹城
「鵲白鳥黒」

出品作家は次の方々です。

- | | | | |
|-------|---------|-------|------|
| 風岡五城 | 安藤清舟 | 久野北崖 | 岩田冬崖 |
| 尾関陶山 | 西尾邑城 | 松浦白碩 | 水谷紅楓 |
| 伊奈詠玉 | 今枝大軒 | 大崎翠石 | 河合聚石 |
| 河野春園 | 鈴木紫舟 | 羽根田昌橋 | 本瀬芝青 |
| 木村大澤 | 伊藤春魁 | 谷口竹城 | 富永奇昂 |
| 山本晴城 | 浅岡桃苑 | 荒川青曠 | 有竹海山 |
| 安藤餘香 | 井口清華 | 石川青崖 | 伊藤南郎 |
| 井浪幸潭 | 岩本清蘭 | | |
| 江口雪華 | 老川揺舟 | | |
| 長谷部升香 | 羽根田昌風 | | |
| 林 春紅 | 東出江園 | | |
| 福井溪風 | 堀江龍舟 | | |
| 堀場仁翠 | 増田一翠 | | |
| 増田春華 | 間瀬清園 | | |
| 松岡麗泉 | 三品芳翠 | | |
| 宮本華楓 | 村瀬天謙 | | |
| 渡辺清香 | (以上敬称略) | | |



雷永奇昂
「光風動春」

豆子甲水之遺墨展

会期：二〇二〇年七月七日～十二日 会場：電気文化会館 五階 東キヤラー



豆子 甲水之
先生

略 歴

一九二三年 四月二十六日滋賀県甲賀郡水口町に生まれる
一九五八年 七月新道書道会創立
一九六〇年頃 東海書道藝術院参画
理事長・会長・名誉会長歴任
書藝連創立 会長・名誉会長歴任
一九六九年 善光寺書道会(御上人)講師
飯田書人会講師
中日文化センター講師
新道書道会ロサンゼルス展開催
第一回個展(丸栄スカイル)
東海書道藝術院展で甲寅大賞受賞

一九七二年 瑞雲書道会で豊道春海賞受賞
一九七七年 第二回個展(丸栄スカイル)
一九八三年 第一回東海書道藝術院南京展開催
一九九一年 新道書道会南京展開催
二〇一八年 十一月八日逝去
享年九十五歳

一月七日～十二日、名古屋電気文化会館東キヤラーにて、東書藝名誉会長で二〇一八年十一月にご逝去された豆子甲水之先生の遺墨展が開催された。門下・新道書道会の情熱と東書藝、東京瑞雲書道会など多くの方々の力を結集しての展覧。豆子先生がいかに偉大で素晴らしい書家であられたか。その証左の一部を拝見できて、ご指導を受けた東書藝会員として大変幸せである。新しい時代になっても先生の偉業は色褪せることなく、永く語り継がれ受け継がれていく。会場ですつと気配りされておられた豆子紫甲先生のお姿が感動的だった。



いろは歌

いろはにほへとちりぬるをわかよ
たれぞわねぢにむすめのおもをよめ
こゝろあきけみしをいとせす
すくも

崔子玉座右銘

齊人止短無説已之長施人慎勿念受施慎勿忘
藝唯仁為紀細隨心而後動諒議席何傷無使名過實守愚聖哲威在
渥察不洩曉內含光柔弱者之從老氏試留強行邪夫志慾改難已覺
懷言節飲食知足勝不祥行不苟者恒久自芬芳

清・石濤「書語錄」

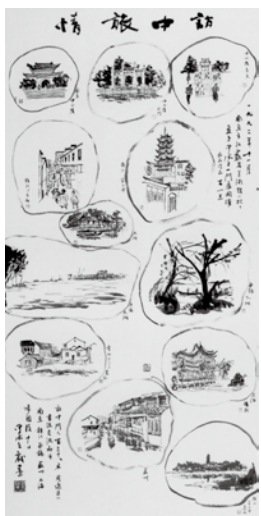
韓退之語

乾坤一槊

杜牧詩 江南春

千里鶯啼綠映紅
水村山郭酒旗風
南朝四百八十寺
多少樓臺煙雨中

訪中旅情



自画像



曹子建詩 七步詩

煮豆燃豆其苦甚矣
豈非同根生而相煎何
急乎

碧巖錄語

七字八裂

第35回記念 景雲社「絆」書道展

二月十日～十六日
クリエイト浜松
ギャラリー31

待ちかねた第三十五回展を浜松に訪ねた。大作から小品、そしてジオラマ書といつもながら実に楽しく、勝田代表まさに面目躍如。硬軟両立の見事な記念展だった。

「同じやるなら 見せなきゃ損、損！」

代表 勝田 晃拓

「皆んな同じでつまらない」
…ある眩きを耳にした時から
我々の挑戦は始まった。何が
足りないのだろうか？…先達の
知恵を頼りに試行錯誤の連
続、日々苦労を重ねて今回漸
く三十五回の節目に辿り着い
た。五年ぶりの浜松での開催
は、厳寒とは思えぬ春の陽気。
大作からミニサイズ、各書体
正統作から観て楽しめる作品
まで、バラエティーに富む大
小様々な作品七十余点が、華
やかに会場を埋
める。連日、関
係者のみならず
一般愛好家の目
にも止めて頂き
「他とは一味違っ
て面白い！」の

声も寄せられ、
もう嘗ての屈
辱はそこには
無かった。何
より本会創立
四十周年の特
別企画であり、当初から会員
の意気込みは違っていた。「お
金も手間もかかる取組なら意
地でも身内だけの品評会で終
らせまい！」と自然に心も腕
も動いた。発足理念「和の
絆」スクラムもそれを後押し。
最終日、特設展に掲げた【O
N T E A M】の文字が一際
輝いて見えた。「我々が競う
のは技術では無い、魂震える、
感動の大きさだ！」。嬉しい
事に、この精神は、次代を担
う若手会員のDNAにも確り
刻まれているような気がした。
「書を見ればココロ踊る。
そんな書を夢見て、さらに、
共に書かん！」



第10回記念 有鄰書展

三月十一日～十五日
岡崎市美術館

第十回の記念展は岡崎市美術館で盛大に開催。練り込まれた
六十七点の作品群には安藤代表はじめ有鄰会員の熱い思いが満
ちていた。益々のご発展を期待したい。

第十回記念 有鄰書展を迎えて

代表 安藤 餘香

神谷葵水先生が亡くなって
から立ち上げた有鄰会。
年一回の書展は、二年前ま
で渡辺静流さんが代表を務め
た葵友会と共に併催してきま
したが、渡辺さん亡き後、葵
友会は解散になってしまい、
私達の単独開催となりました
が、無我夢中でやってきて、
あつと言う間に月日が経った
ように速く感じます。こう



して十回
を迎えら
れたこと
は感慨無
量の思い
です。こ
れも会員
の皆さん
の協力が

あり、会
を盛り上
げてくだ
さったお
蔭だと思
います。

今回の
展覧会、
新型コロナ
ウイルス
スによつて開催するのが悩み
ましたが、会員皆、この十回
展の為に時間をかけて作品づ
くりをしてくれましたので、無
事開催できたことに感謝して
おります。



またこれからも続けて、二十
回を目標に精進していきたいと
思います。

※展覧は、コロナ感染症拡大の影
響で美術館閉館のため、残念な
がら急遽十二日迄に短縮を余儀な
くされました。

'20 今日の書展

一月二十一日～二十六日、愛知県美術館ギャラリーにて開催。新春代表作家展に続く東書藝年明け二番目の大きな展覧で、以文会・玄玄書作院・書典社と四団体合わせて二五八点、東書藝は最多一一八点を出品して存在感を示す。祝賀会は二十日、メルバルク名古屋で盛大に催された。



第2回 四騷展

本会会長・風岡五城先生と、太田海軒、大平玲華、山川昌泉



四先生の作

の三先生による二回目の四騷展は二月二十日～二十三日、栄サンシテイギャラリーにて盛會。人との繋がりで始まったと伺った通り、個性的な作品が響き合いながら配されて調和し、格調高く流石と納得した展覧だった。

第11回 幽石書道会展

幽石書道会（代表・加山幽石本会参事）が三月十二日～十七日、飯田創造館で開催。書の基礎・基本を大切にした作品づくりを目指し、合計五十一点を展示。出品点数も増加と伺い、着実な歩みを続ける。



今後の予定

◇第62回 新道書道会展

会期 5月1日(金)～3日(日)
会場 四日市市文化会館

主催 新道書道会（豆子紫甲）

◇第42回 宏道書会選抜展

会期 5月19日(火)～24日(日)
会場 栄サンシテイギャラリー

主催 宏道書会（山本晴城）

◇第27回 無名會書展

会期 6月16日(火)～21日(日)
会場 名古屋市民ギャラリー栄

主催 無名會（渡辺清香）

◇令和2年 東書藝総会

期日 6月21日(日)
会場 中電ホール

◇'20 八千代書道展

会期 6月27日(土)～28日(日)
会場 桑名市メディアライプ

主催 1階多目的ホール

◇「今日の書」代表作家展

会期 7月14日(火)～19日(日)
会場 名古屋市民ギャラリー栄

主催 中部圏書芸作家協議会

中日新聞社

◇'20 心象展

会期 7月14日(火)～19日(日)
会場 愛知県美術館ギャラリー

主催 好日社（岩田冬崖）

◇松岡麗泉喜寿記念展

会期 7月25日(土)～26日(日)
会場 四日市市文化会館

◇第36回 清和会書展

会期 8月1日(土)～2日(日)
会場 瀬戸信用金庫本店ギャラリーひまわり

主催 清和会（西尾邑城）

◇第46回 宏道書展

会期 8月25日(火)～30日(日)
会場 名古屋電気文化会館

主催 宏道書会（山本晴城）

◇2020 東書藝研修会

期日 9月6日(日)～7日(月)
会場 愛知県蒲郡方面

◇第54回 碩山書院一門展

会期 9月12日(土)～13日(日)
会場 蒲郡市民会館東ホール

主催 碩山書院（天竹翠葉）全振興会

◇第63回 游心書展

会期 9月15日(火)～22日(火)
会場 愛知県美術館ギャラリー

主催 游心書道会（松浦白碩）

編集後記

◇第67回展が開幕。新型コロナウイルス問題の中、細心の注意を払い無事に最終日を迎えた。

令和二年四月 第一四〇号

発行 東海書道藝術院

編集 加藤 松亭

堀江 龍舟